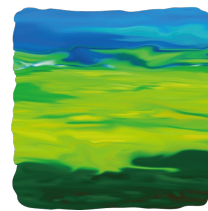


持てるすべてを「いのち」に向けて。
Dedicated to sustaining all life.

農林中央金庫の農福連携の取組について



NORINCHUKIN

農林中央金庫

2025年8月04日

農林中央金庫について



名 称	農林中央金庫
概 要	農林水産業者の協同組織を 基盤とする全国金融機関
設立年月日	1923年12月20日
代表理事理事長	北林 太郎（きたばやし たろう）

資本金	4兆8,174億円		
連結総資産額	83兆4,988億円		
会員(出資者)	3,181団体	JA（農業協同組合）、JF（漁業協同組合）、JForest（森林組合）およびそれらの連合会、その他の農林水産業者の協同組織等のうち、農林中央金庫に出資している団体	
従業員数	3,273人		
事業所	本店（1）、国内支店（18）、海外支店（3）、海外駐在員事務所（1）		
自己資本比率 （連結）	普通出資等Tier1比率	17.70%	
	Tier1比率	19.65%	
	総自己資本比率	22.28%	
外部格付		S&P	Moody's
	長期債務	A	A1
	短期債務	A-1	P-1

* 代表理事理事長・事業所は2025年4月1日時点、それ以外の項目は2025年3月31日時点

持てるすべてを「いのち」に向けて。
ステークホルダーのみなさまとともに、農林水産業をはぐくみ、
豊かな食とくらしの未来をつくり、持続可能な地球環境に貢献していきます

理念

Purpose

持続可能な環境や社会のために
未来に向けてどのような
貢献をしていくのか

Materiality

中長期に向き合っていく
環境・社会課題

事業活動

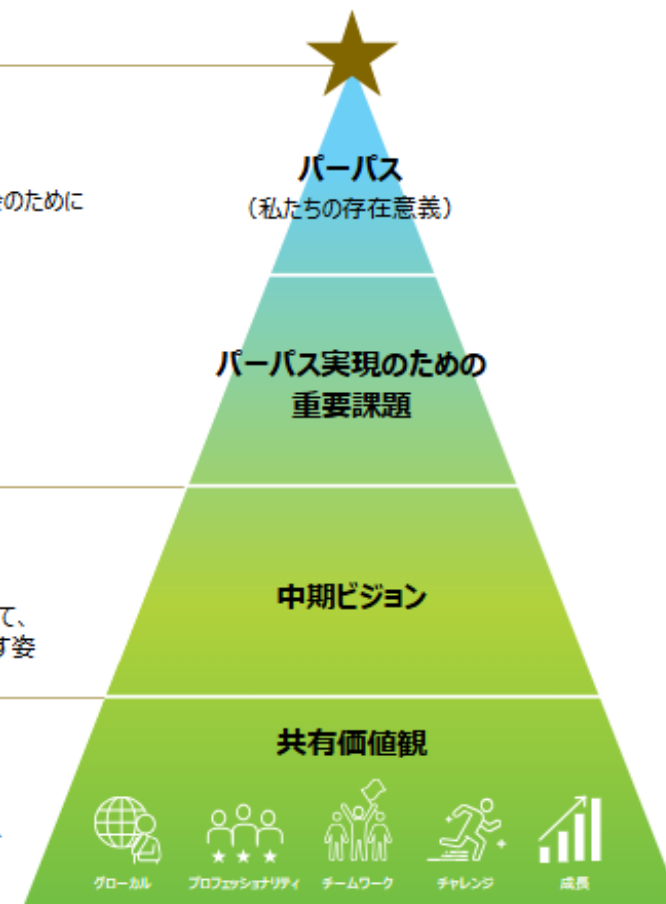
Vision / Strategy

重要課題の解決に向けて、
私たちが中期的に目指す姿

価値観

Shared Value

目指す姿の実現に向け、
私たちが日々業務を
実践するための土台



【目的】

「農業分野の労働力不足」と「障がい者の就労・自立機会創出の課題」といった現状を踏まえ、農林中央金庫のパーパスとの親和性が高い農福連携分野の取組を行うことで前記課題の解決に向けた一助としつつ、あわせて「多様な人材の活躍と職員のインクルージョン意識の向上」によるDE&I推進の観点から本件取組を実施。

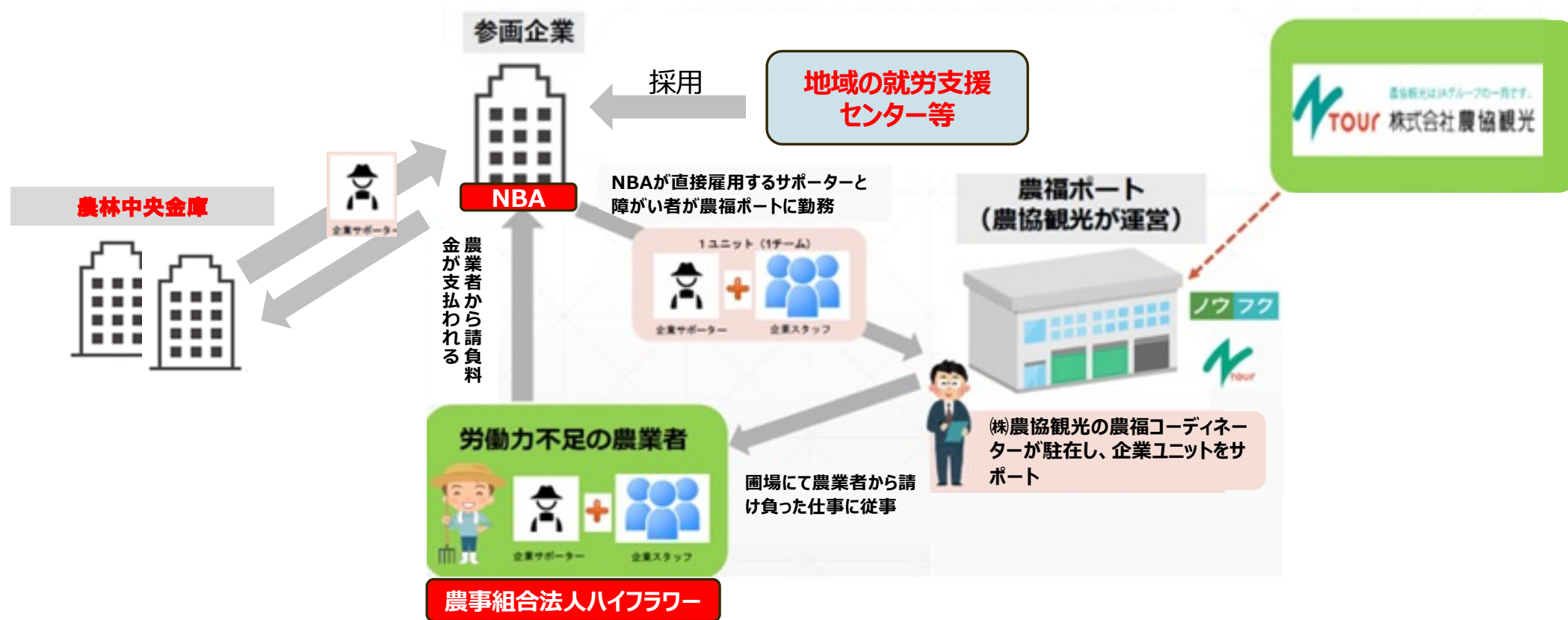
【主な取組】

- ① **特例子会社（農林中金ビジネスアシスト(株)）での農福連携事業開始（2024/11）**
埼玉県羽生市で花卉生産を行う農事組合法人からの農作業受託（2ユニット9名）
- ② **取引先2社を引き合わせた農福連携の取組開始サポート（2024/11）**
当金庫取引先2社（農業法人と事業会社）を引き合わせて農福連携の取組開始をサポート、同農福連携産品を販売するマルシェを当金庫本店ビルにて開催（2025/3）
- ③ **当金庫前橋支店における農福連携サポートの取組（2020年度開始）**
県内福祉側のニーズと農業者側の具体的なニーズを補足し個別マッチング活動を実施
- ④ **農福連携のインパクト評価の可視化試行（2024年）**
上記③について社会的なインパクトの可視化に向けたロジックモデルを策定

具体的取組①（特例子会社での農福連携事業開始）

【概要】

- 前頁の目的を踏まえ、当金庫の特例子会社である農林中金ビジネスアシスト(株)（“NBA”）にて、2024年11月から地元の花卉生産法人である（農事）ハイフラワー（埼玉県羽生市）から農作業を受託する形で農福連携事業を開始。
- 本事業開始にあたり農福連携分野のノウハウを有する(株)農協観光が運営する農福ポートを利用。
- 障がい者3名・サポーター2名の体制でスタート、2025年4月に追加で障がい者4名を雇用しユニットを追加。



具体的取組②（取引先2社による農福連携開始サポート）

【概要】

- 「農業の見える価値を届ける」を経営理念に掲げ事業拡大を検討していた株式会社しゅん・あぐりと、地域貢献・障がい者の活躍促進の観点から農福連携拡大を検討していた株式会社ファミリーマートを引き合わせ、同社社員が地域の農家と協働し栽培や収穫・出荷の作業を請け負う「農福連携」の取組開始をサポート（2024年11月）。丁寧な作業により販売単価が10円増加し収益が向上、既存の社員・パートも効率的な作業分担が可能になり残業が減少するなど副次的な効果も発現。
- また、上記取組にかかる農福産品を販売するイベント「Otemachi Deli マルシェ」を金庫本店ビルにて実施、農福産品の普及に努めた（2025年3月）。



【イベント当日の様子】



【イベントのポスター】

